



College report

vol.24
2021.6

東京聖栄大学報



入学式



卒業式

● C O N T E N T S ●

新理事長就任挨拶／卒業式／入学式…………… 2
学生の安全に対する本学の取り組み／学友会の活動 3

前理事長インタビュー…………… 4・5
大学トピックス／人事について…………… 6

新理事長・学長メッセージ



理事長・学長 田所 忠弘

コロナ感染防止対策長期化に伴う経済事情、特に外食を中心とした飲食業への影響には計り知れないものがあり、現状ダメージも相当なものと考えられます。大学とて蚊帳の外ではなく、その影響がジワリと押し寄せてきております。とは言え、食の総合教育を目指す東京聖栄大学にとっては食から離れることは無論考えられません。むしろ東京聖栄大学ならではの伝統ある叡智をもって教育の発揮処ではないかと考えております。東京聖栄大学理事長福澤先生の後任役としてさらなる大学の持続的発展に向け最大限の力を投入しつつ、学長兼務も仰せつかりましたので、これまでの経験をベースに引き続き、健康栄養学部のもと食品学科並びに管理栄養学科の一層の魅力創りと求心力増強に教職員一同と共に励みたいと望んでおります。皆様のご支援をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策の中の卒業式・入学式

令和2年度 卒業式

令和3年3月15日(月)に第13期生の卒業式が本学わたなべ記念館にて挙行され、管理栄養学科77名、食品学科67名に、学位記が授与されました。田所学長より、「皆様はこの大学生活で物事を的確かつ正確に判断する「科学性」と人の大切な「感性」の両立を身につけ、今日成長出来た自分であることに大いに自信を持っていただきたいです。米国の劇作家の言葉を借りると、苦しみがあればこそ、人は考え、思想があればこそ、人はかしこくなり、さらに知恵があればこそ、人はきびしい人生にも耐えることができるのである。今日改めてこの言葉を添えさせて頂いたことで皆様の心に強く留め置き頂ければ誠に幸いです。」と卒業生にメッセージが送られました。また、4年間の学業成績が優秀な者に与えられる学長賞や優秀賞、各協会賞の表彰が行われました。



表彰者一覧

賞	学 科	氏 名
学長賞	食品学科	佐々木 礼菜
優秀賞	管理栄養学科	大沼 月美貴
優秀賞	管理栄養学科	高野 加純
優秀賞	食品学科	高須 涼兵
優秀賞	食品学科	田口 直輝
優秀賞	管理栄養学科	永井 桜
優秀賞	管理栄養学科	西坂 舞
優秀賞	食品学科	原 彩子
優秀賞	管理栄養学科	松崎 美喜
わたなべ奨学奨励基金特別賞	管理栄養学科	阿久根 萌香
全国栄養士養成施設協会会長賞	管理栄養学科	永井 桜
日本フードスペシャリスト協会会長賞	食品学科	佐々木 礼菜
食品科学教育協議会会長賞	食品学科	勝野 将輝

令和3年度 入学式

令和3年4月1日(木)入学式が本学わたなべ記念館において挙行されました。

今年度は、管理栄養学科81名、食品学科56名の新生が式に臨みました。開式の辞に続き田所学長の式辞では、本学の沿革と建学の精神について触れ、この精神を踏まえ社会に役立つ、実学に沿った教育を実践していることや学生生活の指針となる校訓「熱意・誠意・創意」の三意について述べられました。

また、それぞれの将来への夢と自らの人生に向けて、今日からはより一層健康への思考を深めつつ、中断のない勉学と共に、常に健全な状態を保てるよう今日を機に改めて自らの生活をも見直すことで、新たな門出として頂ければ幸いです

これからの四年間、大いに思考能力を鍛え、磨きをかけ日本とグローバルな食と健康の世界のリーダー役としての活躍に大いに期待している」と結ばれました。



学生の安全に最大限考慮した本学の取り組み

本学ではコロナの状況下にあっても「学生の学びを止めない」をスローガンに、様々な学内での感染症拡大防止の対策を講じて、学生の安全な学びの環境を確保しています。

「オンライン」と「対面」を併用した授業

オンラインと対面授業の授業形態を併用して分散登校等の工夫を図りながらも、教育の質を確保し学修目標を達成できるよう取り組んでいます。



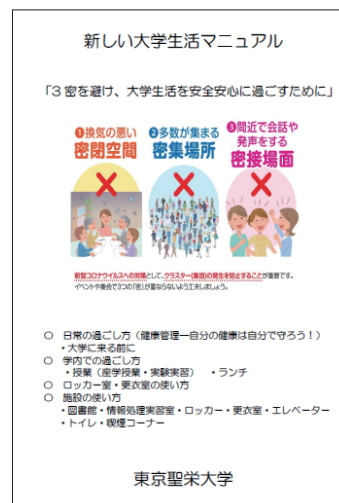
オンライン授業



対面授業(実験・実習) (1班辺りの班員を減少)

「新しい大学生活マニュアル」

学生が安心安全に学内で過ごせる様に作成された大学生活マニュアルです。

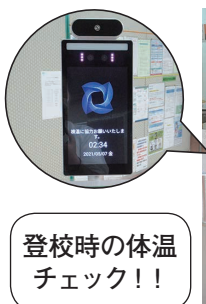


その他のコロナ対策

各所にアルコール消毒や検温機の設置、ランチルームなどの学内施設内ではソーシャルディスタンスを守る工夫を行い、定期的な消毒や換気に努めています。



多目的ホール・ランチルーム(1人1席使用)



登校時の体温
チェック!!



飛沫防止対策・ソーシャルディスタンスの確保

学友会の活動



2020年度 学友会長
管理栄養学科 高島 恭

昨年度、学友会会長を務めさせていただきました。管理栄養学科の高島恭です。

学友会とは、いわゆる生徒会のような組織で、様々な行事の企画運営を行うことと、部・同好会の予算管理などの様々な支援を行い、

学生の皆様が安全かつ有意義に学生生活を過ごすことが出来るような活動を展開しています。昨年度は新型コロナウイルスの影響により、殆どの行事が中止となってしまいました。その代わりに学生への学修支援の補助などを行いました。とても寂しい1年となってしまいました。コロナ禍は続いていますが、今後の状況を踏まえて何か、学生の皆様のためになるような活動を展開していければと考えています。最後になりましたが、新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。



2021年度 学友会長
管理栄養学科 佐藤 里彩

初めまして、令和3年度学友会会長に就任しました佐藤里彩です。

学友会とは、学生皆さんがより良いキャンパスライフを送れるように学生間の親睦と学生生活の充実を目的に支援する組織です。

例年、学生間や教職員の方との交流を深める機会となっている大学行事の体育祭は、昨年に引き続き新型コロナウイルスの感染症が拡大していることを鑑み、開催を中止させていただくこととなりました。先を見通しづらい状況ではありますが新たにできることを模索し、実践していきたいと考えています。学友会は個人で活動するのではなく組織で運営する為、会員である学生皆さんの協力が不可欠です。至らぬ点が多々あると思いますが、役員が丸一となって取り組み日々精進していく所存です。今後とも変わらぬご支援とご協力をお願いして、新年度ならびに就任の挨拶とさせていただきます。

福澤美喜男 前理事長インタビュー「60年をふりかえって」

令和3年3月23日（火）

福澤美喜男 理事長

荒木裕子 学部長

荒木 福澤理事長先生、本日はお時間をいただきありがとうございます。3月で理事長職を勇退されると伺い、教え子代表としてインタビューをお願いした次第です。まず初めに、ご勤務され始めた当初、聖徳栄養専門学校時代のことからお話をいただきたいと思います。

福澤 昭和36年4月着任当初と比べると様変わりしているけれど、現在の校舎で位置が変わらないとすれば、校門と多目的ホールの位置だろうか。当時の校舎はほとんど木造2階建ての造りで校門を入ってすぐのところ、事務室の平屋の建物がありました。今の理事長室の辺りは、私が長年いた理化学実験室と研究室があった場所で、入口に大きな鏡があったのが印象的だったことが思い出される。昔の加工室（現在の多目的ホール）はもともと洋裁学校があった場所であったけれど、今はなき3号館に移転することで、昭和38年ようやくこの場所で聖徳栄養短期大学が開学できたわけです。

荒木 理事長は本学の聖徳栄養専門学校から東京聖栄大学の沿革のすべてを60年に亘り携わってこられました。専門学校時代の頃の学びは如何でしたか。

福澤 専門学校時代は自分も若くて、現同窓会会長の高橋興亜先生も学生でした。その当時は男女共学で定員80名のところ男子学生が20名ほどいて、なかなかやんちゃな学生もいたことが思い出される。当時、専任教員は非常に少なく、短大開設当時の学生定員は40名でしたが、実際は定員の1.5倍ほどの数ではあったが経営は非常に厳しかった。

荒木 短大時代の教育について。学生の教育や生活指導のうえで、特に力を入れて取り組まれたことはどのようなことですか。

福澤 あの当時も本学は実学重視の教育方針で、社会に出て即戦力になる力を付けるということでは今の大学の方針と変わらない。特に実験も調理実習も基礎的な手法をきちんと学ぶことが大切で、私は実験の授業を担当していたが、基礎的なことはとりわけ厳しく授業を行った。

荒木 私は先生から、実験の授業の最初のいろはからご指導をいただきましたが、とてもとても厳しく教えていただきました。

福澤 そうだね、厳しかったよ。実験の技術をきちんと理解し正しい操作ができるようになれば、就職先で品質管理の仕事などをするときでもどこに行っても通用するからね。また、実験では危険が伴うものもあって、学生に怪我などをさせないように、安全に取り組むことは教員として必須だった。だから、火気の事故防止のため実験中は立たせて、椅子には座らせなかった。

荒木 短大は2年間ですが、いろいろなクラブがあり、活動は活発に行われていましたね。

福澤 今の学生はあまりクラブ活動をやらない傾向があるように感じているけれど、部活動をやることで団体行動やチームワークの大切さが学べるのだけれど。教育の中で部活動の取り組みはとても大切で、先生方にも積極的にクラブ活動の指導をしてほしい。

荒木 特に印象深かったことは、短大時代に理事長はデイキャンプをクラスで体験させていたことについてはどんな理由があったのですか。

福澤 研修旅行中、デイキャンプを行い、色々体験させることで、一人一人の学生の個性が引き出されるように感じる。どの子がどのような動きをするか、それぞれの個性をしっかりと知るうえでキャンプでの活動はよかったと思う。小さい大学だからこそできることで、学校は一つの生活の場として授業以外にも、色々な経験からの学びが必要です。教育とは生き物。先生と学生とがもう少しコンタクトができるようになることを考えていってほしいと思います。

荒木 先生の昔を懐かしく、図書館へ行き全部の卒業アルバムの中から先生のお写真をとってまいりました。あの頃はスリムで素敵でした。

福澤 確かに昔は痩せていたね。その頃は食べるものも不足している時代だったから。

荒木 長かった短大時代があり、栄養学科と食品学科の取組みがあり、その流れから四年制大学への移行になりましたが、短期大学を四年制大学に改組して行く際、当時の理事長先生と福澤先生が一緒になり四大への移行に取り組まれたご苦労は並大抵なことではなかったかと思えます。「将来構想委員会」で検討したと伺いましたが、このあたりのことをお話しいただけますか。

福澤 大学を新設するにあたり、一番苦労したのは、設置基準上の問題として校地が足りなかったこと。この新小岩の土地も一部は借地で、本来ならば借地は認可が下りなかった。そこで当時の川口理事長と岡本法人事務局長と三人であらゆるところの土地を探したことを今でも思い出される。江戸川から葛飾、そして千葉県は船橋・鎌ヶ谷の松林の中まで歩いて探したけれど、結果的には4年制大学を開学できる土地はなかった。その後、平成14年の大学設置基準の改正で、校地規制緩和の朗報が入り、4年制大学をこの新小岩の地で開設できることになり、土地問題も解消できたことは本当に喜ばしいことだった。しかし、共に大学開学を目指して尽力した川口理事長が急逝され、私が理事長に就任することになったのです。4年制大学の設置に関して、規制緩和がなかったらこの新小岩の地で4年制大学はできなかった。



1947年



1957年



1963年

- 荒木** 教員組織・カリキュラム、文科省・厚労省などのご苦勞はいかがでしたか。
- 福澤** 大学の設立について厚労省に関しては種々大変なことが多くあったけれど、教員組織などの文部科学省関係については、ほとんど問題はなく解決できた。やはり、校地の問題解決が99%だったようだね。
- 荒木** 晴れて四年制大学になったあとも、学長と理事長を兼務され、ご苦勞は続いたと拝察しますが。
- 福澤** 4年制大学をスタートするにあたり、不安もあったけれど、教職員の皆さんのフォローがあったおかげで、多くの苦勞もなく今をむかえることができたことは感謝しかありませんよ。
- 荒木** 教職員のフォローアップ体制は、理事長のリーダーシップがあったからこそだと思います。現場が大好きな先生が、現場から離れられ、私自身淋しい気持ちがありました。学長を兼務しながらの理事長のお立場から現場をみていかがですか。
- 福澤** 先生方、教職員が夫々自分の仕事に責任をもって励んでもらえればそれで大丈夫。私学にとって理事長が独裁者であることが一番の悪いことであり、そうなると思んがが寄りかかってくるからね。
- 荒木** 理事長と一緒に歩ませていただき、先生がとても重要とお考えになっていらしたことの一つに危機管理の対応がございました。事案発生に対して、即時の対応と共にリーダーシップを発揮していただき、判断を迫られるときは的確なご指示をいただいたことはこのコロナ禍においても大変感謝しております。また、地域との交流ということに本学では非常に重視していますが、学生の地域貢献活動を盛んにしようとお考えされたかと思えます。そのあたりの理由をお聞かせいただけますか。
- 福澤** 入職したころは、この地域との連携は全くなく、地域とはあまり関係を持たないという考え方だったような気がする。私は地域を大切にしないと大学は伸びないという考えなので、地域に根ざした大学でありたいと考えている。そして、大学は地域の人に貢献できることがあれば積極的に協力するべきだと考え、町会の第6自治会の方々と本当に仲良くさせていただきました。学校の評判は地域の人達の見方で変わる。学生も地域のいろんな人と交流させていただくことで成長していく。地域との連携により学生は社会的な勉強ができることをこれからも大切にしていかなければいけないと思う。地域と連携しない学校は成長しないし、地域の方に学生を育ててもらおう学校としてあり続けたい。
- 荒木** 葛飾区との協力活動また被災地支援として、福島県唐町との共同研究など大きく発展し、地域貢献の大学としてこれからも地域との関りを大切にしていきます。新小岩は、勤務され始めた昭和36年当初と比べ、隔世の感がある街になったかと思えます。印象に残っていることをお話しいただけますか。
- 福澤** 新小岩は昔から駅周辺の整備が遅れていて、ここに大学があるんだと驚かされることもあった。しかし、今は駅周辺も見違えるくらい美しく生まれ変わってきて、久しぶりに新小岩に来た卒業生はみんなびっくりしている。今後、大学の校舎も建て直しを検討するかね。
- 荒木** 今後の学園を担っていく教職員・後輩に激励のお言葉を頂けますか。
- 福澤** 少子化の中で大学の運営も大変かと思うが、上の人たちが同じ方向をみて事に当たることが大切だと思う。皆が協働していく人の「和」が大切だね。リーダーシップを発揮する人が方針をきちんと立てそれを皆でしっかりとやっていく。トップの責任は重いけれど、周りがそれを支えていくことが肝要なのではないだろうか。皆の力を一つに結集することが大事であると思う。
- 荒木** 人生の大半を本学園での学生教育、また基礎を固めるためにご尽力いただいたことに、改めて、教え子の一人として感謝いたします。今の四年間の学生の気質と短大時代の2年間の学生の学校への思いの相違はあるかと思いますが、理事長が教員の現役時代、短大の学生と寄り添いながら一緒になって教育を行ってきた若き頃を懐かしく思い出します。その頃の思い出は。
- 福澤** 私自身、学生と共に過ごす日々を大切に思い、積極的に学生とかわって来た。若いときはみな、成長していく段階にあり、授業を通して「悪いことは悪い」をはっきり教えてきた。先生として、学生を育てるためにも、自分の方針をしっかりと学生に伝えて指導することが大切だと思う。ただ授業の実を行うだけでなく、授業における目標となる一定の基準をそれぞれ学生に伝えて、常にレベルアップを図っていくこと、そして一人ひとりの学生をしっかりと見ていくことが教育のうえで必要であると考えます。
- 荒木** ありがとうございます。福澤先生のご健康を心からお祈りしてインタビューを閉めさせていただきます。インタビューをさせていただきましたことを心から感謝しまして、ここで花束を贈呈したいと思います。



福澤美喜男先生略歴 (昭和8年10月8日生)

昭和36年4月 聖徳栄養専門学校教員として入職
 昭和56年4月 聖徳栄養短期大学 教授
 平成12年4月 同 学長 (平成18年3月迄)
 平成15年11月 理事長就任
 平成17年4月 東京聖栄大学 学長 (平成25年3月迄)
 令和3年3月 理事長退任
 令和3年4月 学園長就任
 (表彰歴)
 平成2年10月 厚生大臣表彰 (栄養士養成功労)
 平成12年10月 文部大臣表彰 (短期大学教育功労)
 平成26年10月 葛飾区自治功労者表彰特別表彰
 平成27年11月 秋の叙勲で旭日中綬章 受賞



なお、福澤美喜男前理事長は令和3年4月1日理事会の議決により、東京聖栄大学学園長にご就任されました。

かつしかの元気食堂推進事業（受託研究・葛飾区との連携協働事業）

令和2年度はコロナ禍において、活動を大幅に変更しました。学生が開発したメニューのコンテストはカレンダー用レシピ集の写真撮影に変更し、区民を対象とした試食会は、予約制による大学でのお弁当販売として実施しました。様々な変更がある中、学生達は「美味しく、バランスのとれたメニュー」が開発できるよう、工夫をこらし、食べて頂いた区民の方々からも好評を得ました。こうした緊急的な状況の中であっても様々な工夫と学生や担当教員の熱意によって取り組むことができたことは今後の活動に活かすことができると確信しています。



新理事長に田所忠弘氏就任

学校法人東京聖栄大学は、令和3年4月1日開催の理事会において、田所忠弘氏を全会一致で理事長に選任しました（学長兼務）。任期は理事長・学長ともに4月1日から4年間となります。また、理事任期満了により理事長を退任された福澤美喜男氏を学園長に委嘱することが同日の理事会で決定されました。

役員（理事・監事）紹介

	氏名	職務分担
理事長	田所 忠弘	学長（法人統括、わたなべ幼稚園担当）
常務理事	高橋 成彰	（総務担当、理事長補佐） 法人事務局長
	村上 秀男	（財務担当） 法人相談役
	阿左美 章治	（教学担当） 東京聖栄大学附属調理師専門学校長
理事	荒木 裕子	（健康栄養学部長）
	有馬 克彦	（利益相反検討委員会委員）
	筒井 知己	（研究推進担当、図書館長）
	丸山 信一	（企画調整室長）
監事	渡邊 由美子	（理事長特命担当）
	中村 甫尚	
	彦坂 令子	

（令和3年4月1日現在）

人事について

令和3年4月1日付

教員

大学

学長 田所 忠弘
 学部長 荒木 裕子
 図書館長 筒井 知己
 管理栄養学科長 宮内 眞弓
 食品学科長 北村 義明
 校医 正田 良介

<委嘱>

コンプライアンス推進責任者
 研究倫理教育責任者

荒木 裕子

昇任

大学

教授 風見 公子（准教授）
 【研究室名：給食経営管理】
 教授 片山 佳子（准教授）
 【研究室名：食品加工学】

採用

大学

教授 正田 良介
 【学位：博士（医学）】
 （東京大学）
 【前職：】
 国立病院機構東埼玉病院 院長】
 【研究室名：解剖生理学第1】



教授 貝沼 章子

【学位：農学博士】
 （筑波大学）

【前職：】
 東京農業大学教授
 【研究室名：食品衛生学第1】



准教授 熊谷美智世

【学位：博士（学術）】
 （お茶の水女子大学）

【前職：】
 東京ガス食情報センター
 特任副所長】
 【研究室名：調理科学】



特任教授（非常勤） 佐藤 哲司
 助手（任期制） 勝倉 悠馬
 助手（臨時） 松下 麻衣
 非常勤講師 石橋 裕子
 太田 進
 村田 勇司
 望月 洋孝
 横沢 泰志

令和3年3月31日付

退職

大学

教授 竹内二士夫
 大田原美保

特任教授（常勤） 伏脇 裕一
 助手（任期制） 松下 麻衣
 特任教授（非常勤） 佐々木敬卓
 非常勤講師 飯野 邦彦
 應和 邦昭
 大場 智彦
 山本 伸二
 渡辺 順子

事務系

令和3年4月1日付

採用

法人事務局総務部総務課 宮原 将文
 保健室 看護師（臨時） 櫻井 由真
 （令和3年3月10日付）
 大学図書館事務室（臨時） 森田 裕恵

専任委嘱：新規

大学事務部入試・広報課長 岡田 修一

令和3年5月1日付

兼務追加

事務局総務部秘書室（臨時） 森田 裕恵

令和3年3月31日付

退職

幼稚園相談役 萩原 和代
 大学事務部入試・広報課長 岡田 修一
 保健室看護師（臨時） 青木 浩美
 図書館事務室（臨時） 西尾 征二